

河川分科会河川整備基本方針検討小委員会報告

(湧別川水系、尻別川水系、小瀬川水系、小丸川水系)

●小委員会開催

- ・ 湧別川水系:10月30日、11月29日
- ・ 尻別川水系、小丸川水系:11月26日、12月14日
- ・ 小瀬川水系:11月26日、12月14日、1月11日

● 各水系に関する主な委員意見、質問とこれに対する対応、説明

○ 湧別川水系

(河道計画)

【質問】河床の経年変化のうち、護岸工事に関連する変動には、護岸の施工に伴う

自然河岸の掘削分など河道管理のうえで問題がないものも含まれているのではないか。

【説明】護岸工事に関連する河床変動としては①低水護岸等の設置により流路が

固定化し、流れが集中して河床が低下したものと、②護岸や水制等の施工

に伴う自然河岸の掘削分を河床変動として集計しているものがあり、特に

留意が必要なのは前者の低水護岸等の設置により流路が固定化し、流れ

が集中して河床が低下したものである。このような区間については今後の河床変動が堤防等の安定性に影響を及ぼす恐れがあることから、引き続きモニタリングを行い、必要に応じて対応を行っていく。

○ 尻別川水系

(河道計画)

【質問】河口付近における現況流下能力の検討にあたり、洪水後の河床高から計算した水面形が示されたが、河口付近の洪水時の河床は相当程度洗堀されていると考えられ、実際の水面形と計算結果とは異なるのではないか。

【説明】過去に経験した洪水痕跡もとに、洪水ピーク時の河床高を推定した結果、洪水ピーク時には洪水後の比べさらに 1m 程度の河床低下が起こっていたと推定された。これは推定であり、洪水時の観測データが十分でないことから、実態把握のためのモニタリングを継続し、必要に応じて河道計画や河道の管理に反映させていく。

(水質)

【質問】水質が良好と言われている尻別川水系にあって、過去に支川の水質観測地点において BOD 値が高い年があるが、その要因は何か。

【説明】観測地点上流に工業用水の取水があるが、汚水については排水基準を満足する処理がなされており、この排水や河川流況との因果関係は不明であるが、経年的に水質基準は満足しており、今後も関係機関等と連携しながら

らモニタリングを継続し、良好な水質の保全に努める。

○ 小瀬川水系

(河川環境)

【質問】近年、小瀬川流域は多くの観光客とゴミの不法投棄が増えているのではないかと。

【説明・対応】河川・ダム管理のため回収しているゴミの量は横ばいであるものの、回収物には家庭ゴミ、レジャーゴミ、家電製品の不法投棄等が見られることから、ゴミの不法投棄に対しては、関係機関と調整し、住民と一体となって啓発や状況把握等に取り組み、適正化を図ることとし、その旨を本文に記載することとした。

(河道計画)

【意見】計画高水流量流下時に河口部の土砂堆積がどのように流下に影響を及ぼすのか検討すべき。

【説明】河口部の河床は海域方向に徐々に伸びているものの弥栄ダムの完成等により安定化の傾向にある。河床変動計算結果によると河口部で大きな堆積はないほか、水位は計画高水位を上回らないことを確認し、今後も定期的なモニタリング等により、洪水時の流下状況や河床材料の粒度分布と量を含めた土砂移動の定量的把握に努める。

(基本高水)

【質問】基本高水のピーク流量の検証方法をわかりやすく説明すべきで、平成17年9月出水を考えたとき、既定計画の基本高水のピーク流量を踏襲することによいのか。

【説明】流量観測開始前の洪水も含めた総合的な検討や平成17年9月洪水は最大規模と推定されるものの、基本高水のピーク流量を超えていないことから、基本高水のピーク流量について既定計画と同じにする。

○ 小丸川水系

(河道計画)

【意見】高城付近は川幅が狭く、洪水時の流速が速く、河川管理施設が被災している。掘削は有力な方法だが、他にどのような方法が考えられるのか検討すべき。

【説明】「河道掘削のみの案」と「河道掘削に加え引堤を行う案」で、洪水時の流速分布を比較したところ、ともに高速流の発生が抑制されているため、河川整備基本方針では、社会的影響の少ない「河道掘削のみの案」で対応する。

(水質)

【意見】濁水対策は、濁水の発生と長期化を改善することが必要であるので、その内容を記述すべき。

【対応】本文に記載することとした。

河川整備基本方針検討小委員会名簿

湧別川水系、尻別川水系、小瀬川水系、小丸川水系

委員長	福岡捷二	中央大学研究開発機構教授
委員	綾日出教	(社)日本工業用水協会顧問
委員	池淵周一	京都大学名誉教授
委員	石島操	全国森林組合連合会代表理事専務
委員	入江登志男	(財)給水工事技術振興財団専務理事
委員	上河潔	日本製紙連合会常務理事
委員	岸井隆幸	日本大学理工学部教授
委員	楠田哲也	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授
委員	黒木幹男	北海道大学大学院工学研究科准教授
委員	小池俊雄	東京大学大学院工学研究系社会基盤学専攻教授
委員	後藤裕	百足の会会長
委員	小松利光	九州大学大学院工学研究院教授
委員	坂本弘道	(社)日本水道工業団体連合会専務理事
委員	佐藤準	全国土地改良事業団体連合会専務理事
委員	杉尾哲	宮崎大学工学部土木環境工学科教授
委員	谷田一三	大阪府立大学大学院理学系研究科生物学専攻教授
委員	中川一	京都大学防災研究所流域災害研究センター教授
委員	藤野完二	NPO法人中国・地域づくりハウス副理事長

委員	牧野純二	NPO法人しりべつリバーネット理事長	
委員	松田芳夫	中部電力(株)顧問	
委員	虫明功臣	福島大学理工学群共生システム理工学類教授	
委員	森誠一	岐阜経済大学経済学部教授	
委員	森田昌史	(財)日本水土総合研究所理事長	
委員	高橋はるみ	北海道知事	
	(代理)	内田重己	北海道建設部土木局河川課参事
	(代理)	片沼弘明	北海道建設部土木局河川課主幹
	(代理)	西尾正己	北海道建設部土木局河川課長
委員	藤田雄山	広島県知事	
	(代理)	八木峰夫	広島県土木部土木整備局事業調整監
	(代理)	大野宏之	広島県土木部長
委員	二井関成	山口県知事	
	(代理)	中井文雄	山口県土木建築部次長
	(代理)	山本一夫	山口県土木建築部河川課主幹
委員	東国原英夫	宮崎県知事	
	(代理)	野中和弘	宮崎県県土整備部河川課課長補佐
	(代理)	山田康夫	宮崎県県土整備部次長